えくてびあん

立川と語ろう　立川に生きよう
April 2021
Écoutez Bien　Vol.37　No.433

4

心の通うデジタル社会

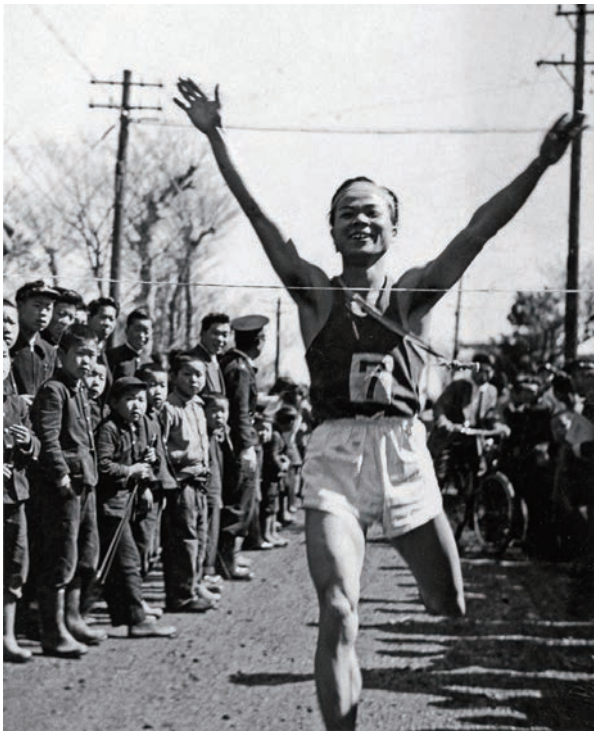
表紙／さくら さくら（柴崎町）

新・砂川深層 ⑦

2021年3月号　新・砂川深層⑥「東航通りを知っていますか」の本文中、
下記につきましては字句の誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。
9行目　誤：昭和13年（1938）8月　正：昭和13年（1938）秋
10行目　誤：所沢にあった『東京陸軍少年航空兵学校』　正：熊谷にあった『東京陸軍航空兵学校』
ご指摘をくださった方に感謝申し上げますと共に読者の皆様ならびに関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

砂川青年団主催
町内一周元旦駅伝大会

案内人：豊泉喜一氏


阿豆佐味天神社前のゴール

正月の箱根駅伝を見ながら、かつて我が砂川も毎年元旦、砂川町青年団主催の町内一周駅伝大会が盛大に沿道の大声援を受けて開催されていたことを思い出しました。勿論、規模も距離も比較にはなりませんが、当時は未だテレビなど無い時代で、走っている選手も沿道で応援している人も互いに顔見知りであり、さらに各支部対抗ですから各地域の応援にも熱が入り、選手も声援に応えて力走し、正月の風物詩でもありました。

砂川は江戸時代初期五日市街道の両側に新田開発で出来た、東西二里八丁凡（おおよ）そ9キロほどの町で、俗に「ウナギの寝床のような」といわれ、街道沿いに一番組から十番組と殿ヶ谷、宮沢、中里、それに八軒（南砂川、現栄町）が加わり十四の支部で構成されていた街村でした。

その細長い砂川村に駅伝競走が始まったのは敗戦後4年目、戦災復興の最中の昭和24年（1949）、戦後再発足した砂川青年団が、新しい村造りの意気に燃え企画したものです。砂川の中央部阿豆佐味天神社をスタート、五日市街道を西へ向かい砂川中学分校（現西砂公民館）までが1区、そこから中里の村境の横田基地で折り返し、砂川中学分校までが2区、そこから阿豆佐味天神社までが3区、神社から東へ砂川七番の芋窪街道を右折南進、現立川通りを左折して南砂川公会堂前（現とんでん）が4区、ここから五日市街道九番の交差点を右折、国分寺境で折り返し十番組公会堂前が5区、ここから阿豆佐味天神社前がゴールとなるコースを設定、このコースを14の各支部の選手が各地域の声援を受け競い合って力走しました。

第1回から3回までの記録を見ますと、1位の記録が41分32秒となっていますので、この時期は村内一周と言っても、南砂川に行かず五日市街道を東西に往復して走っただけだったようです。南砂川を回るようになったのは第4回からで、距離も全長1万8800メートル、記録も1時間8分前後になって文字通り砂川を一周する駅伝となり、私も選手として何回か出場したことがあります。昭和32年（1957）第9回までは、毎年3月の第1日曜日に行われていましたが、昭和33年（1958）第10回から1月1日開催に変わり、元旦駅伝として正月の名物行事になって、五日市街道の沿道から応援の人達の声援が飛び交い大変賑やかでした。

毎年、年末になると各支部の青年達は元旦の駅伝大会に備え、選手の選考を兼ねて夜間練習を始め、その中から六人の選手を選んで参加します。各支部対抗駅伝ですから、選手達は自分の住んでいる各地区の声援、期待に応えるべく練習に励んだものです。

昭和38年（1963）5月1日立川市と砂川町が合併、この頃になると砂川も都市化が進み、テレビを始め様々な娯楽が普及、青年団員の減少、活動も低調になって支部組織も弱体化して、駅伝大会の開催は困難になりました。毎年元旦五日市街道を賑した駅伝大会もこの年（昭和38年）、第15回をもって終了しました。町が発展し都市化が進むと青年団に入る若者がいなくなり、今では青年団活動もなくなりました。あの頃は地域で青年が輝いていた時代でした。

芋窪街道栄町三丁目付近

現モノレール砂川七番駅付近（走者は筆者）

［インタビュー］

きらり！この顔

Tachikawa Inside Outside
あの人、この人、立川人 84

［ 立川に育まれて ㉕ ］

人間だからできることに集中する

新しい情報産業、新しい報道業界

データを蓄積し、価値あるものに変換して社会の役にたっていきたい。
人間にしかできない仕事をするために、報道を機械化する会社。
行ってみたら、とても人間味のある人たちがいた。

株式会社JX通信社
「テクノロジーで『今起きていること』を明らかにする報道機関」を目指す報道ベンチャー。「仮想通信社」として、テレビ局や通信社、新聞社、一般消費者に「新しいニュース」を提供している。2008年1月10日設立　代表取締役は米重克洋氏、現住所は千代田区一ツ橋

JX通信社　https://jxpress.net/
Twitter：@NewsDigest

――立川市にある統計数理研究所に、御社から新型コロナウイルス感染状況データが提供されているとうかがいました。

濱川　はい。そうですね。新規感染者が何人増えたかという情報を提供しています。JX通信社はその感染者情報をすべての都道府県からリアルタイムで情報収集しており、感染者の年齢や性別など属性をひとりずつ分析したデータを蓄積して研究機関などに提供しています。

――各局のニュースに出てくる感染者数がそうですか？

濱川　そうです。今日は何人感染確認されました、というものですね。報道機関はそれぞれ独自にやっているんですけれども、大手のポータルサイトはほぼすべて我々の情報を使っていらっしゃいます。

――2月15日あたりから各局が報道している「新型コロナワクチン接種予測」もそうですか？

濱川　そうです。弊社ではニュース速報アプリ「News Digest（ニュースダイジェスト）」内で、16歳以上の全国民の新型コロナワクチン接種スケジュールをAIで予測する機能を開始しました。

――どうやって開発されたのですか。

濱川　アプリを創るのは別の専門の人たちがいるのですが、私は全国の自治体にアンケート調査を実施するところから携わっていて、データを分析したりしています。

――「自分がいつ頃ワクチンを打てるか」がわかるんですよね。やってみました（笑）。

濱川　ありがとうございます（笑）。

――自治体によって時期がずいぶん異なるんですよね。

濱川　本当にそうなんです。人口も違いますし、人数構成も違いますから。

――そのアンケートはどうやって取られたのですか。

濱川　基準となるのは優先接種をされる方の人数です。そこから算出しようということで、65歳以上の高齢者や基礎疾患をお持ちの方の人数を、各自治体に直接アンケートで聞きました。結構詳細に自治体から返信が来まして、そこから優先接種の人数のある程度の予測ができたわけです。

――アプリでは都道府県よりもっと細かい自治体でしたよね。

濱川　国内の全市区町村にあたる1741自治体あります。アプリの性能を上げていくために、この調査は継続して何回かアンケート調査をしていきます。

――どのくらいのスパンでされるのでしょう。

濱川　優先接種が始まったので、接種のペースなどを見ながら次の質問の内容を考えて、どうしたらより良くアプリに反映させることができるかを検討してやっていきたいと思っています。

――御社のイメージは、機械的といいますかデジタルな人間味のないものだったのですが、今お話をうかがっていると、ものすごく人間的に働いていますよね。

濱川　そうなんです。まさしくおっしゃる通り、私も入社する前は人間味がないなと思っていたんです。でも中に入るとそうでもなくて。もともと弊社はテクノロジーを使って新しい報道のあり方を追求していこうというもので、報道業界ってどこも長時間労働だったり、労働集約型でコストもかかりますし、人件費などみんなかなりしんどくなっているじゃないですか。

――はい。

濱川　そういった部分をテクノロジーの力で補えないか、人間は人間だけができることに集中できる、そういう業界を作れないかということで、弊社の代表である米重が始めたという経緯があるんです。ですから、情報を集めるのはテクノロジーに任せて、そこから分析するとか読み解くというところを記者がやるということを現実化させているんですね。

――なるほど。

濱川　ですから今回の感染者情報も日々いろいろな情報が出てくるのですが、この情報の収集自体は人工知能が自動的にやってくれるんです。

――どうやって？

濱川　それはTwitterとかGoogleの検索から「感染」とか「陽性者」などの文言が入っているサイトとかPDFのファイルとかを自動的に拾い集めてくるというプログラムをエンジニアが創って、我々の情報を収集するサイト上に自動的に情報が流れてくるというフローを構築しているんです。当然、誤情報とかミスがあったりするので、そこは逐一人間の目でチェックします。

――SNSを駆使されているというわけですね。

濱川　SNSの性質によって集まって来る情報もいろいろありまして、感染者情報以外にも、もともと事故とか事件とか火災情報とかの発災情報というものを収集して、それを報道機関とか各自治体、企業などに提供するというシステムを作っていたんです。

――確か消防署にも提供されていますよね。

濱川　そうですね。JX通信社は「FASTALERT（ファストアラート）」というサービスを5年くらいやってます。これも大半Twitterからの収集になります。こういうのをずっとやっていたという経験があったので、今回のコロナも我々が体験したことのない災害と位置づけて、とにかくコロナの情報をたくさん収集して蓄積し何か形にしようというところで進めていました。

――携帯、スマホの時代に入って、みんながカメラマン、みんなが記者という状況を上手に利用したんですね。

濱川　おっしゃる通り、誰もがレポーター時代ですから、そういった一般の人たちにニュースを届けてもらう、情報を集めてもらうというところに目をつけたのが、報道業界においては新しいというか、今までに無いところですよね。

――濱川さんは前職が新聞記者でいらっしゃいますが、前職と比べてどうですか？

濱川　情報の覚知という点においては各段に早くなりました。新聞記者時代には当局が発表した公式情報という裏づけがあったので安心していられました。が、Twitter情報だけではこれって本当なのかなと不安になる部分が元記者としてはあって、見極めという部分では難しさを感じています。

――2月15日に御社の取締役の方がNHKの朝の番組で「Twitterのデマを見抜く」ことをお話されていました。新型コロナのワクチンに関してもいろいろな意見が流れてきますよね。

濱川　本当にそうです。報道の在り方が問われている時代だと思います。SNSの発達で一般の方も報道について意見することができるようになりました。そうなると今まで一方的に情報を発信していたメディアの在り方など、当然いろいろな批判を受けるわけで、今まで我々がやってきた報道の形って必ずしも正解ではなかったのだなと、もっといい形があるのではないかと考えます。

――リリースをそのまま記事にするようなメディアも多くありますから。濱川さんはコロナ関連以外にどんなことをなさっているのですか。

濱川　弊社はSNSを通じたサービスを展開しているのですが、多くの企業がSNS上で炎上することを恐れていらっしゃいます。企業の危機管理のための情報なども収集しておりまして、その情報提供をしたり、その収集の機能を高めたりという作業をしています。

――炎上の方程式のようなものはあるのですか。

濱川　ある程度の基本はあるのですが、例えば飲食店などですと、異物混入ですよね。そういうものを見つけると、一般人はすぐアップしてしまうんです。事の真偽に関わらず企業にとってはアップされて困るもので、「こんなの出ていますよ」ということを企業に知らせる、それが早ければ早いほど、火消しも早くできるわけです。

――それって見張りするんですか？

濱川　見張りをするとコストがかかりますから、我々は炎上を自動で検知する仕組みを作るのです。

――AIですね。AIだからどんどん成長するわけですよね。

濱川　そうです。炎上とみなされた投稿をAIに教えることで学習してより早く見つけられるようになります。基本的に先ほどご紹介したFASTALERTも同じですね。火災でしたら、これも火災じゃないか、あれもそうじゃないかとAIが自動で勉強して見つけ出してくれます。

――さてコロナに戻りますが、ワクチンの接種予測のあとは何をなさるのですか。

濱川　これまでの経験からデータを蓄積することの価値を考えてきていまして、今回も新型コロナがどこで発症者を出しているかという情報を全部収集しているので、それを基に今後新型コロナ以外にも何かあった場合、同じミスを繰り返さないために、という点で社会に貢献したいと思っています。

――密だからって必ずしもそこで感染者が出るわけでもありませんもんね。

濱川　そうなんです。そこが感染症のわからない所なんです。

――うまくすれば、飲食店の疲弊も防げるかもしれないですよね。

濱川　我々はデータを蓄積して価値あるものに置き換えて社会に還元する、そういうところに存在意義を、自分たちの会社が存在している意味を置いて考えているので、ただただデータを集めて持っているわけではなく、それを基に社会が良くなることを目指しています。世界全体がこのデータが元で救われた、あるいは良い方向に持っていけたというか、そうなるといいなと思っています。

――危機管理という観点から情報収集されている唯一の会社、かな。若い人たち、頑張ってるんですね！

濱川　そう言っていただけて嬉しいです。

濱川太一さん

株式会社JX通信社 UX局 コンテンツマネージャー。29歳。和歌山県生まれ、大阪大学卒業後、産経新聞社記者を経て、JX通信社へ。入社して半年した頃、新型コロナウイルスの感染拡大が確認される。その時からずっとコロナに関わり続け、AIが集めてきたデータを分析、読み解いて社会に還元している。JX通信社入社がきっかけで関東圏へ。立川は「国営昭和記念公園は行きました」と。人懐こい笑顔でデジタルをわかりやすくしてくれた。

街を歩けば
出会いの輪を広げて

国文学研究資料館 ないじぇる芸術共創ラボ展

「時の束を披く」

―古典籍からうまれるアートと翻訳―

資料館に眠る古典籍を異文化に引き合わせると…
文化と文化の化学反応はキャンベル館長の願い

その道の第一線で活躍するクリエーターたち。研究者ではない人たちが資料館に保管される古典籍を手にとり、同様にその道の第一線を走る研究者たちと共に学ぶと、一足飛びに時を越え、文化の領域を超え、新しい世界を披いてゆく。

二〇一七年十月に文化庁の委託を受けて始まったプロジェクト「ないじぇる芸術共創ラボ」は、誰にでもひらかれた歴史的文化資源である日本の古典籍を、もっと多くの人たちに自由な発想で活用してもらうべく続けてこられた。今、その一端が結実して展示されている。

豊富な知的資源をどう活かし、生活を豊かに楽しんでいくか。どんな人も古典籍に触れて化学反応を起こすことができるという証がここにある。見なければもったいない。

ないじぇる芸術共創ラボ展「時の束を披く」
会期：二〇二一年二月十五日（月）～四月二十四日（土）
会場：国文学研究資料館 一階展示室
開室時間：十時～十六時
※新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、一時間ごとの事前予約制になっています。
事前予約方法はこちらから。→

長塚圭史　劇作家・演出家・俳優

黄表紙と演劇は如何にして出会うことができるのか。
「黄表紙」とは、江戸時代中～後期にかけての30年間、江戸の知識人たちにより作られた、滑稽な絵入り読み物。黄表紙の「作者」の在り方に関心を抱いた長塚圭史さん。江戸を代表する戯作者・山東京伝に注目。そこから生まれた化学反応は…。

ピーター・J・マクミラン　翻訳家

言語をとおして、和歌の美意識を探る旅へ。
「奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の　声聞くときぞ秋はかなしき」
さて、紅葉を踏み分けているのは誰でしょう。ふたつの世界観の境目の曖昧さが魅力だと考えるマクミランさん。あえて主語を入れない英訳。和歌の美意識を探る旅路とは…。

川上弘美　小説家

それは今昔愛の物語。
当初から、「伊勢物語」をモチーフにした小説を執筆することは決まっていました。でもただ「伊勢物語」の舞台を現代に移しただけでは、自分が書く意味はないと考えた川上弘美さん。そしてできあがったのが「三度目の恋」でした…。

梁 亜旋　現代芸術家

過去との対話が叶ったその瞬間の印象・感情を鮮やかに描く。
貴重なことがらや、ひっそりと受け継ぐべきことがらを記すために用いられた巻子本（かんすぼん）。巻物にロマンを頂いたのが梁亜旋さん。絵巻「百鬼夜行図」を見ているうちに、妖怪が巻物から飛び出してきた…。

ゲストクリエーター
山田卓司　情景作家

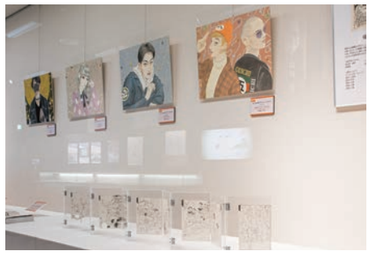
江戸時代の風景が　今、蘇る
東海道五十三次の風景を、鉢植えの中に作ってしまおうという江戸時代の発想を、令和の情景王がリアルに再現してみせました。足音や馬のいななき、水の流れる音さえ聞こえ、江戸時代の風に吹かれる…。

山村浩二　アニメーション作家

「かつての"夢の格"を取り戻したい」
秋成の「夢応の鯉魚」に触れて夢の世界を旅し、蕙斎の筆をとおして自然の世界に遊んだ山村浩二さん。その人が生んだ幻想世界「ゆめみのえ」をお楽しみください。語り部は長塚圭史さん、英語語り部はなんとロバート キャンベル館長。

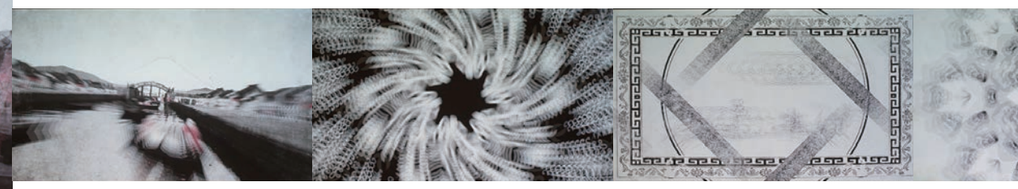
松平莉奈　画家

「どの先生に　弟子入りする？」
模写することで、先人たちに問いかけを繰り返したそう。デジタルアーカイブから、いにしえの絵師たちの筆致を学ぶ。「古典籍をひらくと、いつでも偉大なる先生たちが待っていた」というのは松平莉奈さん。そこから生まれた化学反応とは…。



ゲストクリエーター
WOW　ビジュアルデザインスタジオ

それは、知に触れてゆく一人旅。
国文研蔵の『伊勢物語』『江都名所図会』『装剣奇賞』の3作品を映像で立体化。
時空を超えて引きずり込まれる感覚は、体感しないともったいない。



えくてびあんの輪

えくてびあんはリストのお店にあります。
今月は 柴崎町・富士見町・緑町・泉町 のお店です。

柴崎町

- オリオン書房 サザン店……525-3111
- ビストロ&バル ラポール……529-3088
- WISH BONE……527-7199
- 西武信用金庫 立川南口支店 529-1311
- たましん 南口支店……528-2211
- リオネットセンター立川……523-3321
- りそな銀行 立川支店……522-4161
- オリオン書房 アレア店……521-2211
- ほっとすべーす 中屋……522-2932
- 立川ワシントンホテル……548-3380
- Coffee Shop LARGO……525-6704
- パッケージプラザ カサイ……522-8601
- (株)けやき出版……525-9909
- ベーカリー&カフェ BAKU BAKU 527-2721
- 喫茶 ギャラリー花……524-3668
- 髪職人 YOSHIZAWA……522-5593
- のーかる……512-5415
- 矢沢歯科……525-6600
- キッチンコート立川店……540-1131
- LaLaLa……090-2564-3198
- スープ・カフェ なんでもない日 523-5114
- 武本測量(株)……524-7731
- 立川市柴崎市民体育館……523-5770
- NPO法人 東京賢治の学校 523-7112

富士見町

- (株)浅見酒店……522-2823
- 伊藤接骨院……524-7861
- さえき 西立食品館……529-5333
- 西村歯科クリニック……519-9501
- 井上レディースクリニック……529-0111
- 中華レストラン 東華園……529-0458
- 有料老人ホーム サンビナス立川 527-8866
- 飯塚花店……522-5684
- うさぎ専門店 ラッキーラビット 524-6054
- ぴーぴーK 70……525-3623
- (株)ホーミー……522-2220
- カフェ・貸しホール ばくだん畑 522-2214
- 波多野米店……522-2884
- 立川市社会福祉協議会……529-8323
- 立川市歴史民俗資料館……525-0860
- 乙黒東洋整骨院……523-1859
- インテリア アイアイ……522-5972
- たましん 富士見町支店……528-1741
- 滝ノ上米店……522-4019
- ESPOA おぎの……522-4500
- 建築リフォーム(有)日防商会 0120-263821
- (株)立川印刷所……524-3268
- 日本交通立川(株)……528-2151
- 松栄寿司……524-6958
- ふじみ食堂……523-4791

緑町

- たましん 本店……526-7700
- GREEN SPRINGS info 524-2222
- Adam's Awesome Pie 595-8375
- 国立国語研究所……540-4300
- 国立極地研究所……512-0652
- 南極・北極科学館……512-0910
- 国文学研究資料館……050-5533-2900
- 花みどり文化センター……528-1751

泉町

- 昭和天皇記念館……540-0429
- インヴォラーレ・ルーデンス 立川ルーデンステニスクラブ 525-9677

jorakugajo

真如苑提供番組〈常楽我浄〉

スカパー!:529ch

スカパー!で放送の常楽我浄は
スマートフォンアプリ「ivy」(無料)で視聴できます。

J:COM 多摩:11ch・111ch

放送時間については番組表をご確認ください。

www.shinnyo-en.or.jp

街の話題 TOPICS OF TACHIKAWA

2月15日 大雨と二重の虹

東京は久しぶりの大雨でした。乾燥しきった土にしみ込むように水がいきわたり、夕暮れ前の16時ころ、きれいな二重の虹がかかりました。関東のあちらこちらで見られたようで、ネットにはそれぞれの地域発信「虹写真」がたくさん。虹はみんなの心も運気も上げてくれたようですよ。

第70期王将戦七番勝負第4局

2月13日と14日、将棋王将戦第4局がソラノホテルで行われました。渡辺明王将が3連勝して迎えたこの日、永瀬拓矢王座が初日から優勢。将棋を詳しく知らなくても、トークショーや大盤解説など楽しむことができました。ちなみに昼食に渡辺王将が「柔豚の豚カツ御膳」を召しあがったのだとか。柔豚は立川のブランド豚。立川の味を堪能されたのではないでしょうか。永瀬王座は両日ともにあまおう苺の大福を召しあがったそうです。ソラノホテルでは現在アフタヌーンティーでストロベリーフェア実施中。第4局は永瀬王座が1勝を返して第5局へ向かいました。

2月12日の記者発表で、左から田中大貴三段(記録係)、中川大輔八段(副立会)、永瀬拓矢王座、渡辺明王将、谷川浩司九段(立会)
場所はルーデンス

大盤解説で封じ手の封筒を見せる室谷由紀女流三段

大盤解説で長考する中村大輔八段(左)と佐藤康光日本将棋連盟会長

消防指導コンテスト表彰式

昨年9月に行われた消防署員による一般向け初期消火訓練指導コンテストにおいて、優秀な成績をおさめた消防士長 松本圭弘さんが、2月10日優良都民防災指導員として表彰されました。立川消防署長から表彰状を、防災指導部会長の萬田和正さんからメダルを授与された松本さん、「私の話を聞いてくださる方々が笑顔になってくださるように、時間を割いて話を聞いてよかったなと思ってもらえるように、常識の範囲でユーモアを交えて話せるよう事前準備をしました」と。このコンテスト、今回が初めてだったのですが、これから松本さんが1つの基準になっていくんでしょうね!都民としては、わかりやすく面白く話していただけると、印象に残っていいのだと思います。みなさん、2021年も頑張ってください!

前列中央が松本圭弘さん。右は鈴木立川消防署長、左は萬田和正さん

今年もウドの品評会

2月19日、幸町のみのーれ立川で2020年度うどの品評会が開かれました。立川が誇るうどは真っ白でまっすぐなもの。先が緑の山うどに比べるとあくが少なく、香りも上品。生で美味しいのが特徴です。いろいろな観点から山下明さんのうどが東京都知事賞を受賞しました。品評会に出たうどは、一般に即売されました。

新潟から雪

2月20日、朝早く新潟から10tトラック10台分の雪が立川にやってきました。10tトラックのままではグリーンスプリングスに入れないので、2tトラックに詰め替えて、何往復もして約100tの雪がステージガーデン前に。運ばれてきた雪に子どもたちは大喜び。この週末、立川は最高気温が23度にまで上がり残念ながら21日には融けてしまいました。

2日前に降ったばかりのきれいな雪ですとトラックの運転手さん

運び込みながら、安全確認してさらに雪を運び込みます

20日の様子 びしょびしょになっても遊びたい!

フェンシングに親しんで

アリーナ立川立飛でフェンシングのスクールが開かれているのをご存知ですか? 指導しているのはフェンシング界の一流です。せっかくお近くでフェンシングをやっているのだからと、2月26日、フェンシングの普及に努める江村宏二氏が立川第六中学校を訪れて自ら指導。江村氏は、2008年北京オリンピックで銀メダルを獲得し現日本フェンシング協会会長の太田雄貴さんを指導した方。六中では3年生3クラスが体育館に集合、フェンシングユニフォームに着替えた代表者が実際に試合をしました。みんなが集まって、みんなの笑い声が聞こえる。とってもいいひと時でした。

手前の選手が突いて、緑のランプが灯りました

天空のアフタヌーンティー

ソラノホテルのルーフトップバーでランチをいただくか、アフタヌーンティーをいただくか。迷うところです。3月末までストロベリーフェア。その後も季節のフルーツでアフタヌーンティーを楽しめます。このアフタヌーンティー、14時半からですが、お昼ご飯は食べないで行きましょう。おなかがいっぱいになる苺尽くしのコースです。

苺のわらび餅、苺のあんみつ、苺のスコーン…と苺がいっぱい

あまおうのデラックス一粒と、あまおうのパルフェ、その下に抹茶のティラミス これはほんの一部です

表紙

メジロかわいや桜も見ごろ

桜と菊が日本の国花。桜の色を見れば春だと感じ、菊の香りを嗅げば秋を知る、日本の国は豊かですね。声はすれども姿は見えず、それがウグイス。チッチと姿も見せてくれるのがメジロです。花爛漫の季節には街場に現れて蜜を摂ります。立川も桜の名所があちこちにあり、メジロもウグイスもそこかしこ。根川沿いはコロナがなければウォーキングする人で賑やかでしょう。泉体育館周辺も桜のトンネルが見事です。玉川上水沿いは車で走ってもお花見ができるところ。公園やご自宅の庭の桜を愛でるのもいいですね。緊急事態宣言が解かれても、密になることを避けて、今年は「おうちで花見」が主流でしょうか。桜の盆栽などが売れているそうです。おうちだとメジロもウグイスも来ないのだから、桜でなくてもいいのかもしれませんね。

かたこと

◆コロナ禍、2度目の春がやってきました。幅広く医療に従事される方々に、感謝すると共に身体安穏をお祈り申し上げます。未曽有の災害と言われた東日本大震災から10年。「被災地」という言葉でくくれない、ひとり1人に異なる被災があったあの日から、地球難と言われるコロナ禍の今。人にとって大事なものは何なのか、考えさせられます◆今年6月9日に満90歳を迎えられる豊泉喜一さんとゆっくりお話する機会がありました。現在「新・砂川深層」の連載を執筆してくださっています。豊泉さんのお言葉に「ここに例えば大金があってもそれで自分の命を1日も延ばせるわけでなし、あの世へ持って行けるものでなし、金って何なんだろうなと思うことがある。必要な分以外はいらないなと。やっぱり人間は今をどう生きるかが一番大事だな」と。そして「このコロナでいろいろなことが変わって、もう元に戻らないかもしれないね」とも◆だとしたら、どう生きていきましょう。元に戻る日を待つのも生き方。一旦退いて出直すのも生き方。攻め続けるのも生き方。豊泉さんは続けます。「昭和一桁の人が本当にいなくなった。空襲の経験があるとか、基地拡張反対闘争の現場で座り込みしたとか、そんなことも含めてあらゆるところで体験を話していこうと思う」と◆えくてびあんも、えくてびあんらしく立川を応援し続けたい。コロナに負けない! 自分に負けない!常に立川に寄り添って。 えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ©

4月号 第37巻 通巻433号

令和3年4月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・写真・編集 えくてびあん編集スタッフ
デザイン 池田隆男(WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 三浦印刷株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

市営プール

［昭和色　立川の風景カレンダー　その 14　1964］（写真：立川市歴史民俗資料館）

柴崎市民体育館が開設される前、そこには立川市営プールがあった。前回の東京オリンピックが開催された 1964 年に竣工したその施設には、写真右側の 50m、奥の 25m、幼児プール（通称：しょんべんプール）があり小学生時代、夏休みには幾度となく通ったものである。遊泳後は、外に並ぶ露店のアメリカンドッグや焼きそばを観覧席で食うのも楽しみだった。当時、「バミューダー禁止」という貼紙があったが、ガキには意味不明だった。ここには、日焼けしグラサンをかけ半分ケツが出たビキニの海パンを履いた、アルバイトの監視員の兄ちゃんたちがいて、飛び込みでもしようものなら黄色いメガホンで罵声を浴びせられる。それがすこぶる怖かった。小学校中学年の夏休み、この日は 2 時間 20 円の使用料だけをポケットに入れ、市営プールに向かった。時間まで遊び帰るときに係の兄ちゃんが「チョーカ」と言った。意味が解らず友人と顔を見合わせると「時間超過だから追加料金を払え」ということだった。途方に暮れるオレたちに向けた怒号が館内に響いた。職員と思われるおじさんが「次回から気をつけて」と許してくれ事なきを得た。それ以来、写真右奥の「つり堀」の看板がある立川園プール（通称：つり掘りプール）を利用した。料金は市営プールの 5 倍。シーズンオフはつり堀だから水質が疑われ入ると目が潰れるなんていう都市伝説もあった。でも空いているし何より鬼舞辻無惨のような監視員がいないから存分に楽しめたのである。

文：鈴木 武 氏（立川印刷所社長）